

「夏休み塩の学習室」で熱中症対策を行いました。（2019年度）

たばこと塩の博物館（東京都墨田区）（塩と暮らしを結ぶ運動賛助会員）では、恒例の「夏休み塩の学習室」として、40回を迎える今年は、「さぐってみよう！海のみぐみ」が開催されました。

これは、様々な食品や料理に含まれている「海のみぐみ」を探していく体験イベントで、例えば「ゼリー菓子」を選ぶと、原材料の「マクサ（テングサ）」が指示され、会場内に展示されている模型や標本の中から「マクサ」を探し、その説明を読んで、クイズに答える、というものです。

また、会場には「塩ゾーン」も設けられ、国内外のさまざまな塩について、展示を見ながら、どこの海水から、またいつの海水から（岩塩や湖塩も、かつては海水でした）できたものかを調べて、クイズに答えていきます。

7月20日（土）から8月25日（日）までの期間中は、自由研究のヒントを求める親子連れなど、連日、大勢の来場者で賑わいました。館内は空調が効いていますが、梅雨も明け、一歩外に出るととても暑い日が続きました。

そこで、たばこと塩の博物館では、2階の「さぐってみよう！海のみぐみ」の会場及び1階のミュージアムショップに塩と暮らしを結ぶ運動のウチワを設置し、自由にお持ちいただくこととしました。

期間中、「夏休み塩の学習室」には約16,000名の来場がありましたが、その中で、約1,900名の方に、ウチワをお持ちいただき、熱中症対策について改めて知っていただくとともに、帰路の熱中症対策に役立てていただきました。



「さぐってみよう！海のみぐみ」の会場



会場及びミュージアムショップにウチワを設置



「夏休み塩の学習室」でも周知活動を行っています。(2018年度)

塩と暮らしを結ぶ運動推進協議会の協力団体であるたばこと塩の博物館（東京都墨田区）では、毎年、夏休み期間に、小・中学生向けの「夏休み塩の学習室」が開催されており、自由研究のヒントを探す親子連れなど、多くの来場者で賑わいます。

第39回となる今年は、動物園を模した会場で、いろいろな動物に話を聞きながら動物と塩の関わりについて学べる「動物にきこう！塩のひみつ2018」が開催されています。

それぞれの動物から話を聞いて、その動物が塩を「すごくほしい」のか「それほどほしくない」のかあるいは「ほしくない」のかを当てていき、正解するとカードが貰えます。マルミゾウ、ジャイアントパンダ、ライオンなど全部で12種類の動物のカードを揃えると、日替わりでペーパークラフトなどの賞品と交換できますが、その一つとして、塩と暮らしを結ぶ運動のウチワも提供しています。

博物館内は空調が効いていますが、一步外に出るととても暑い日が続いているため、ウチワは大変好評をいただいています。扇ぐだけでなく、裏面の熱中症対策情報も、ぜひお読みいただければと思います。

また、夏休み期間には、「動物にきこう！塩のひみつ」のほかにも、塩の結晶づくりなどができる「体験コーナー」も開設されていますが、その近くに塩と暮らしを結ぶ運動の冊子『塩と暮らしのあれこれBOOK』も設置し、自由にお持ちいただいています。

博物館で動物と塩の関わりを学んだあとは、冊子を読んで、人間の暮らしと塩の関わりについても、ぜひ学んでいただきたいと思います。



塩イルカTシャツを着用したスタッフの皆さん



左：「おはなしマシン」で動物の話が聞けます。
右：正解すると貰えるカードとカードケース



左：ウチワとペーパークラフト
右：『塩と暮らしのあれこれBOOK』

